

## 「2023年度中国・浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学総合人間学部1年 小島 ころろ

## 1 学習成果

今回の派遣での一番の学習成果は、中国語が想像以上にわからないということが実感できたことだ。大学に入学してから第二外国語として1年間一通り文法を習ったが、実際に中国に行き、大学での授業や店やタクシーで現地の人と会話するときに、伝わらないし、伝わったとしてもその返答を聞き取れないことばかりであった。逆に、浙江大学の長期留学生などは簡単な単語や文法でも、積極的に話し、伝えることができていた。生活していく中で店で使える簡単な言葉が伝わるようになったことはとても嬉しかった。これからの中国語学習の強いモチベーションができた。

## 2 海外での経験

今回の留学で特によかったことは、中国のディープ・カオスな部分を経験できたことだ。滞在していた浙江大学玉泉校区周辺は、日本人が多いが、観光地ではなく、英語もあまり通じないような土地だった。道路にバイクがとても多く、ぶつからないように必死だったが、一週間もすると慣れた。大学内がとても広く一つの町のように、食堂やカフェ、スーパー、美容室などがあり、日本との違いが面白かった。大学の外は、地元の人々が行く小さな店から大きなショッピングモールまであり、現在の中国人の生活をしっかり見ることができた。

## 3 プログラム内容

授業はほとんど中国語で行われ、ときどき英語で説明が入った。最初のころは先生の指示もわからずついていくのに必死だったがだんだんと聞き取れるようになっていった。文法・会話・リスニングがあったが、リスニングが私は一番難しかった。日本人は漢字で意味をなんとなくくみ取ることができてしまうので、音からいったん漢字に変換し、そのあと日本語に変換するという過程を今まで自分はやってきており、リスニングとなると瞬時に理解ができず苦労した。授業は毎日ニコマであり、自由時間が多く他の留学生などにご飯によく行き交流できた。週末には上海と南京に行き、とても充実したプログラムであった。

## 4 進路への影響

大学一年でこのプログラムに行けたことは本当に大きな価値になった。自分がいかに中国語を話せないのかが分かったのと同時に、簡単な単語や文法でも発音をしっかりすれば伝えることができることがわかった。英語以外に中国語を話せるようになることは大きな強みになると思うので、大学卒業までに中国語習得を目指したい。これからは発音と会話重視で勉強していきたい。初めて2週間の留学をしてみて、旅行ではわからない中国の文化や価値観に触れることができて、長期留学を絶対にしたいと思うようになった。